

23年度 県近代文化功労者に3人

県教育委員会は25日、2023年度の県近代文化功労者3人を発表した。熊本大名督教授で文筆家としても活躍する小野友道さん(83)「熊本市」「肥後三郎弓」の制作者で弓道文化の普及発展に貢献した松永重昌さん(93)「芦北町・三菱鉛筆UNI」など優れたデザインを世に送り出し、熊本県伝統工芸館の基本コンセプトなどを構築した秋岡芳夫さん(1997年に76歳で死去)を選んだ。

顕彰は1948年度にスタートし73回目。県出身か在住歴があり、学術や芸術などの分野で熊本の近代文化の発展に貢献した人物が対象。顕彰者は今回で計308人となった。

県内の市町村教委や関係団体などが10人を推薦。7人の選考委員が選んだ。顕彰式は11月27日に県庁で開く。3人の功績をまとめた冊子約1100部を作製し、後日県内の小中学校や大学、各自治体の図書館などに配布する。

(熊本麻里子、鬼束実里)

小野友道さん 医療と文化振興尽力

松永重昌さん 「肥後三郎弓」制作者

秋岡芳夫さん 優れた工業デザイン



小野友道(おの・ともみち) 1940年、山口県徳山市(現周南市)出身。熊本大医学部卒。皮膚科・皮膚腫瘍学の第一人者として国内外で多くの学生を指導し、医療を支える人材の育成に尽力。熊本保健科学大学長なども歴任。文筆家として多くの著書を執筆。文化振興にも貢献した。

松永重昌(まつなが・しげまさ) 1930年、芦北町出身。2代目肥後三郎。伝統的な材料と技法で手作りした肥後三郎弓は、弓道界最高峰とも評される。制作技術は県重要無形文化財に指定。後継者の育成にも尽力。海外にも弓道と武道精神を広め、弓道文化の継承発展に貢献した。

秋岡芳夫(あきおか・よしお) 1920(97年。豊福村(現宇城市松橋町)生まれ。東京高等工芸学校木材工芸科卒。工業デザイナーとして優れたデザインを輩出。「消費者から愛用者へ」を提唱し、全国の手仕事の復興や地域再生に尽力。熊本県伝統工芸館の基本コンセプトも構築した。